

## 商議員会報告

平成22年度商議員会が、去る7月31日(土)駿河台記念館で開催され、今年、本学が創立125周年を迎えたことを祝賀する意味合いから、一般的な質疑応答による会運営にはよらず、吉川和夫東京都副知事の学員特別講演の後に、商議員各位からご意見を受け、中央大学に対する思いを新たにするという議事運営が行われました。

当日の議事は、先ず、室勝弘商議員を議長に選任し、久野理事長・学員会会長から法人及び教学機関の役員紹介、会長から学員会副会長の紹介があった後、久野理事長から招集者挨拶として、商議員各位をはじめ、大学関係者のご支援・ご協力により創立125周年を迎えることができたことへの深甚なる感謝と併せて、現下の国内外の社会経済状況が非常に厳しい環境にあり、本学においても、125周年の歴史を生かすような、具体的な施策の実行と

存立をかけた対応が求められること、役員、教職員が一丸となって危機意識を持ってこれに対処しなければならないこと、大学教育を高めていくとともに、施設についても、将来の構造を考えた選択と対応が不可欠であり、財政状況を冷静に判断する中で、都心展開等に対する対応を検討すること等の方針が述べられました。引き続き、吉川副知事の特別講演、永井学長の学事報告、大久保常任理事の平成21年度事業実績・平成22年度事業計画の説明、玉造常任理事の平成21年度決算概要・平成22年度収支予算の説明があった後、商議員各位からは、小学校の設置、中学校に対する学校評価委員会の検討、スポーツ振興、都心展開、大学所有の土地・建物の評価、教学機関の個別会計等について、活発な意見が開陳され、本学に対する大きな期待が示されました。

## 順調に建設が進む

### 後楽園キャンパス新2号館

後楽園新2号館は生命科学科が利用するエリアを1期工事、その他エリアを2期工事として建設が進んでいます。1期工事は

2011年1月31日に竣工を迎える予定です。

1期工事エリアでは外壁材が取付られたことにより建物らしい姿が現れ、新しいキャンパスの胎動が感じられるようになってきました。12月からは新2号館を特徴付けるテラコッタルーバーの取付が始まりました。建物内部では既に内装工事に着手しており、新たな実験環境で研究を行う学生達を迎える準備が進んでいます。

2期工事エリアでは鉄骨工事が進められています。大型クレーンが忙しく働く様子は見飽きることはありませんが、12月初旬には全ての鉄骨が立ち上がることとなり、いよいよ新2号館の全容が浮かび上がってきます。11月末時点で全体の出来高は、52.4%となりました。



「21世紀館（仮称）」は『中央大学創立125周年記念プロジェクト“CHUO D・N・A PROJECT 125th”』に込められた未来への願いとともに、中央大学及び日本の伝統・文化を発信し、過去・現在・未来の「中大人」が出会う活発な交流の場と新たな文脈を多摩キャンパスに構築することをマスターコンセプトに構想された複合施設です。

現在、「21世紀館（仮称）建設委員会」のもと「中央大学歴史館建設小委員会」「白門スポーツ殿堂館建設小委員会」「文化的所産に関する美術館建設小委員会」の3つの小委員会を設置して、『オール中央』の繋がりと結束を強めながら、その理念を実現するための努力を続けています。

本学が世代を重ねて築き上げてきた歴史、白門スポーツの輝かしい実績、さらに

日本の歴史と美術に関する教養教育と研究の機会を中大生や来館者に継承することで、本学の社会的な役割を果たすことができます。

建設地はモノレール駅・グリーンテラス近隣を予定しています。ここは常に大勢の人々が行き交うゲートウェイであり、過去と未来、本学と世界を結ぶコネクションとして「21世紀館（仮称）」に最も相応しい場所となるでしょう。

（右）中央大学125年の歴史を、貴重資料の展示やインタラクティブアートとのコラボレーションで多彩につづり、好評のうちに終了した記念展示「学びのたから 中央大学の起源・絆・記憶」（7ページに掲載）。



## 国際学生寮の開設について

中央大学では、既に渡日前入試（来日せず海外で実施する入学試験）を一部の学部・大学院研究科で実施したり、海外協定大学からの学生交換生の受入れが100人規模に到達しようとしており、これに合わせて来日後すぐに生活出来る住環境の整備が急務でした。

そのような背景から、今般、JR豊田駅から北へ徒歩約8分の日野市多摩平にあるUR都市機構所有の旧公団住宅一棟(64室)を、中央大学の国際寮として一括で借り上げる事が決まりました。

この物件は、もともと世帯向け3DKでしたが、(株)リビタが借り受け全面リフォームすることで3名分の個室は確保しつつ、キッチンとトイレ等を共有、シャワーブースと共同大型キッチンは1階の共用スペースに集中させたオール電化・省エネ構造のシェアハウスになります。そして賃料は家

具・家電・インターネット設備付、管理費・水光熱費等込み、24時間の管理人常駐体制で月額6万円以下を予定しています。

このシェアハウスは日常生活の中で自然に他人との交流が出来る構造になっているところが特徴で、本学ではここに海外の外国人入試を経た留学生、交換留学生、日本人学生の3人を1グループとして入居させることで生活を通じて異国の言語や文化、生活習慣に接してもらおうとともに、この寮に入居した全ての学生が大きな家族として親しく交流を深め、しかも国際感覚を磨く教育の場として有効活用されることを期待しています。

現状でも700人近くの留学生を受け入れており、今回入居できる学生はほんの一部ですが、今後はこの国際寮をモデルとして、安価で安全な国際教育施設を順次整備する予定です。

## 学校法人中央大学と学校法人横浜山手女子学園 法人合併について

学校法人中央大学と学校法人横浜山手女子学園は、2010年10月1日に合併をいたしました。それを記念し、式典および記念祝賀会を開催いたしました。

合併記念式典は、横浜山手中学校・高等学校の体育館を会場とし、創業家である渡邊家ご一族、卒業生の同窓会組織である羽杖会（はづえかい）、保護者の方々をお招きし、教職員、生徒全員が参加して行われました。

当日、中央大学からは久野理事長、永井総長・学長をはじめとした学部長等大学関係者が列席をしました。久野理事長、永井総長・学長からの祝辞が行われた後、横浜山手女子学園から中央大学への校旗の引き継ぎが行われ、生徒・保護者、教職員ともに正式に

中央大学の附属学校となったことを実感していただきました。また、横浜山手女子学園をこれまでの間支えてこられた渡邊家ご一族の方々に久野理事長から感謝状の贈呈を行い、感謝の意を表しました。その後横浜の中心地に移動し、渡邊家ご一族をはじめ、神奈川県、横浜市、そして県内教育関係者をお招きし、合併祝賀会を開催しました。

祝賀会では神奈川県私立中学高等学校協会工藤理事長をはじめとし、ご来賓の方から今回の合併の意義、神奈川県において初めての中央大学の附属学校となった今後の中央大学横浜山手中学校・高等学校への期待も含めたご祝辞をいただきました。こうした中、横浜山手女子学園に対する創業者・創業家の思いとこれまで同学園が果たしてきた歴史的な役割を継承し、また、国際都市横浜に所在する学校としての特色を発揮しながら、中央大学の附属学校となった中央大学横浜山手中学校・高等学校を責任もって運営し、発展させることによって、神奈川県ならびに横浜市に貢献していくことの決意を関係者に披露するとともに、あらためて、創立以来100年にわたって学園を支えてこられた渡邊家に感謝いたしました。

横浜山手女子学園に関係のある多くの方々にご出席いただき、盛会裡に祝賀式が執り行われました。



## 学部学費について

時限的な措置を講じ、2011年度に限り、2010年度学費と同額に据え置き、2012年度以降の学費は現行の定率漸増を適用することとしました。

2011年度以降の学費の見直しにあたり、教育研究環境の整備計画を支える財政状況はたいへん厳しい見通しとなります。一方、

大学として一層の積極的な環境整備が必要であるとの認識から、次の点を基本的な方針とすることとしました。(1) 引き続き、大学改革推進のために、計画的に教育研究条件の充実と財政の調和をめざし、併せて他大学の学費水準や経済状況にも留意する。(2) そのため、学費の定率漸増方式



は継続し、改定率は変更しない。ただし、現下の厳しい経済環境に一定の配慮が必要と判断し、2011年度に限り2010年度の学費と同額に据え置く（2011年度入学生、在學生とも適用）。

その上で来年度、改めて2012年度入学生以降の学費を提案することとしました。以下に改定内容の骨子を示します。

(1) 入学金は、据え置いて現行どおり24万円とします。(2) 2011年度入学生に適用される学費（授業料・施設設備費・実

験実習料）は、前年度額に対し1%の定率漸増を行います。ただし、2011年度の学費は、2010年度の学費と同額とし、2012年度から前年度学費に対する1%の定率漸増率を適用します。なお、経済学部及び商学部の実験実習料については据え置きます。(3) 2010年度以前の入学生（在學生）の学費についても、2011年度に限り、2010年度学費と同額に据え置き、2012年度以降の学費は現行の定率漸増を適用します。

## 新しい景観が多摩キャンパスに誕生 —キャンパス改修工事について

2007年度より推進している安全力強化プロジェクトは皆様のご協力をいただき、順調に進捗しております。耐震補強工事・吹付材除去工事は最終年度を迎え、夏季休業期間中には多摩キャンパス3号館や8号館（東側）において建物内部の工事を終了しました。引き続き外部工事と、8号館（西側）・9号館の施工準備を継続して行っています。中央図書館ではトイレ改修工事を実施し、エリアごとに男女を分け、明るく安心感のあるトイレへ改修しました。

多摩キャンパスの顔ともいえる正門付近は、ランドスケープ全体を見直し、新しい景観として整備し直しました。学生の憩いや表現の場を新たに創造し、歩車分離によ

る安全確保や来校の方々を気持ちよく迎えるゲストレセプションにも配慮されています。緩やかにカーブを描く坂道は多摩キャンパスならではの造形として、四季折々の景色と一体化してキャンパスライフを演出します。

施設充実では後楽園キャンパス新2号館新築工事、附属高等学校5号館（第二体育館）他新築工事に取り組んでいます。後楽園は2011年4月からの授業開始に向けて順調に工事が進んでいます。附属高等学校では慣れ親しんだ旧体育館・プール・部室棟の解体工事が終了し、10月28日には地鎮祭が執り行われました。工事中は安全確保のため、引き続きご協力をお願いいたします。

